

活動の概要

(周南熊毛支部)

地域の教育文化を高める郷校「徳修館」顕彰保存活動

コロナ禍で3年間講演活動を中止したり会場を変えたりして試行錯誤しながら実施してきたが、本年は4年ぶりにやっと本来の形に戻して開催することができた。

県指定有形文化財である郷校「徳修館」の顕彰保存活動も14年目を迎え、その一環として「積菜（せきさい）及びふるさと歴史講演会」を、三丘地区の徳修館顕彰保存会と県教育会周南熊毛支部が共同で開催して7年目となり、すっかり定着してきた。

1 活動日程（積菜及びふるさと歴史講演会）

- ・ 8月9日 実行委員会
- ・ 9月1日 役員会 チラシ配布、案内状発送
- ・ 9月16日 徳修館内外の清掃、草刈り作業
- ・ 9月29日 積菜儀式練習
- ・ 9月30日 前日準備、清掃作業 三丘小児童へ論語朗読指導（2回）
- ・ 10月1日 「積菜及びふるさと歴史講演会」開催

2 積菜及びふるさと歴史講演会

積菜は、学問の祖である孔子の功績を崇め奉る厳粛な儀式で地域の各団体代表者が参列し、地域の教育と安寧を願う儀式である。全国でも十指しか行われていない貴重なものであり近在からも来場者がみられる。今年は4年ぶりに公開し、三丘小児童の論語朗読もあり、来賓も招聘して厳かな儀式が行われた。

引き続き実施している歴史講演会も発足当時から続いている行事である。毎年講師を招へいし、本年も歴史家一坂太郎氏による9回目の講演を開催した。会員や広く地域の歴史愛好家約70名の参加があり「廣澤眞臣と木戸孝允～生誕190年～」と題して約1時間半お話をされた。特に講師は全国的にも著名な先生であり、地域の歴史を話題にしていることから毎年多くの方が期待しており、近郊から多くの来場者があり好評であった。

論語の普及のため次のような諸活動も実践している。

○周南市立三丘小学校との連携

- ・ 毎年の積菜の式典の中で児童による論語朗読を行っている。三丘小学校の児童数が少なくなり5、6年生による発表を行った。このような形式は全国の積菜でも類を見ないものである。
- ・ 三丘小学校転入職員及び新入生には、小冊子「あいうえお論語」を贈呈しており、運動会の参加賞としても全児童に論語鉛筆を贈呈している。これまでも保存会では子どもだけでなく家庭での論語の学習を奨励している。

○県有形文化財「郷校徳修館」の公開を年6回実施している。毎回数名の来館者があり、その他不定期の来館者を含めると毎年200人程度の来館者があり関心は高い。

(1) 成 果

- ① コロナ禍で3年間の空白があったが、積菜及びふるさと歴史講演会が地域において定着してきている。特に講演会は熊毛地区周辺からも来場者が増えている。
- ② 積菜では毎年三丘小の児童の論語朗読を行っている。学校で日頃から素読の暗唱に力を入れており子供達にも定着してきている。

- ③三丘地区の郷校「徳修館」を中心としたこのような文化活動を継続することにより、地域の文化を高め、子弟の教育を重んじる教育風土をしっかりと醸成して来ている。
- ④本支部としても、このような地域の文化団体と共催して事業を継続して開催することは教育会の地域での存在アピールにもなり、今後の支部活動にも大いに好影響をもたらしていくと思われる。

(2) 今後の課題

- ①著名な講師を招聘すれば経費もかかるが参加者も増える。保存会の経費で何とか賄っているが、今後も県の助成金を確保していただきたい。
- ②「釈菜」は儀式であり、毎年同様のものであるので参加者が少ない。PRをしたり、中がよく見えるように明るくしたりして工夫していきたい。
- ③講演については、さらに郷土の身近な人物や歴史などを素材にした内容に焦点を当て、熊毛地区の人達への参加が増える様、地域の歴史を改めて認識していく機会としたい。

【釈菜の様子】



きれいに清掃された聖廟前



熊北高生のボランティア2名



多くの来賓を迎えての厳かな儀式



開会の辞を述べる 杉村保存会会長



升谷熊毛北校長

【講演会の様子】



受付をする会員



講演に熱の入る一坂太郎氏



会場いっぱいに詰めかけた参加者



謝辞を述べる山村進支部長

配布用ビラ

熊毛の文化を高める

第12回 ふるさと歴史講演会

一坂太郎氏 9回目の講演



幕末を中心にした歴史を研究
多くの著書もありテレビでの放映
も多く、全国で活躍中の歴史家

ひろさわまさおみ き ど たかよし
「廣澤眞臣と木戸孝允」

～ 生誕190年～

- ◆ 令和5年10月1日（日）
10:30～12:00
- ◆ 周南市 三丘市民センター
（三丘徳修館）
- ◆ 駐車場 市民センターグランド
- ◆ 参加料 無料
- ※ 「萩菜」は9:00～10:00

プロフィール

1966年兵庫県芦屋市生まれ
大正大学文学部史学科卒業
東行記念館学芸員を務めるも閉鎖により退職
萩博物館特別学芸員、防府天満宮歴史館顧問
国際日本文化センター共同研究員、朝日カル
チャーセンター・神戸文化センター講師など

【テレビ出演】

「堂々日本史」「笑っていいとも!」「BS歴史館」
「英雄たちの選択」「ザ・プロファイラー」「ヒスト
リア」「片岡愛之助の歴史捜査」「お江戸のス
メ」「乃木坂 46 山崎玲奈の歴史のじかん」ほか

主な著書

『高杉晋作史料全3巻セット』
『長州騎兵隊—勝者の中の敗者たち』
『幕末歴史散歩 東京篇』
『東海道新幹線歴史散歩—車窓から楽しむ歴
史の宝庫』
『吉田松陰とその家族—兄を信じた妹たち』
『高杉晋作の手紙』
『坂本龍馬を歩く』
『高杉晋作情熱と朝鮮の生涯』
『司馬遼太郎が描かなかった幕末松陰・龍馬・
晋作の実像』
『龍馬が愛した下関』
『吉田松陰門下生の遺文』他多数

主催 徳修館顕彰保存会

共催 山口県教育会周南熊毛支部